

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
令和 5 年 9 月 21 日
開設者名 学校法人 関西医科大学
理事長 山下 敏夫

関西医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏名	学校法人 関西医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

関西医科大学附属病院

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号
電話(072)804-0101

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		

診療実績

・アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科で診療している。
・神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
内分泌外科の内容は、耳鼻咽喉科、泌尿器科で診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	血液・腫瘍内科	2	肝臓内科	3	心療内科	4	糖尿病内科	5	肝臓外科
6	胆のう外科	7	肝臓外科	8	頭頸部外科	9	形成外科	10	リハビリテーション科
11	病理診断科	12	臨床検査科	13	脳神経内科	14	脳血管外科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	751	751

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	416	187	453.3
歯科医師	6	4	6.6
薬剤師	62	1.2	63.2
保健師			
助産師	58		58
看護師	840	52.6	892.6
准看護師			
歯科衛生士	11		11
管理栄養士	8	1.6	9.6

職種	員数
看護補助者	178
理学療法士	34
作業療法士	9
視能訓練士	9
義肢装具士	
臨床工学士	24
栄養士	
歯科技工士	
診療放射線技師	47

職種	員数	
診療エックス線技師		
臨床検査	臨床検査技師	75
	衛生検査技師	
	その他	
あん摩マッサージ指圧師		
医療社会事業従事者	9	
その他の技術員	40	
事務職員	192	
その他の職員		

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	38	眼科専門医	12
外科専門医	43	耳鼻咽喉科専門医	20
精神科専門医	6	放射線科専門医	13
小児科専門医	2	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	19	救急科専門医	11
		合計	233

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松田 公志) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

2006年1月1日～2010年3月31日 安全対策委員(セーフティマネージャー)
 2020年4月1日～2021年3月31日 医療安全管理責任者
 2021年4月1日～現在 医療安全管理センター 兼務

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	668.9 人	1.3 人	670.2 人
1日当たり平均外来患者数	2,169.0 人	55.2 人	2224.2 人
1日当たり平均調剤数	1032		剤
必要医師数	190		人
必要歯科医師数	4		人
必要薬剤師数	23		人
必要(准)看護師数	409		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	891.7 m ²	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)耐火建物	病床数	53 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	151.5	m ²	病床数	14 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	53		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名	病棟業務課			
化学検査室	405.3 m ²	〃	(主な設備)	AU-5800、Atellica、Alinity、XE-2100、CS-5100		
細菌検査室	112.9 m ²	〃	(主な設備)	バクテアラート3D、BDフェニックス、安全キャビネット		
病理検査室	299.9 m ²	〃	(主な設備)	セツト印字機、スライド印字機、パラフィン浸透機、免疫染色		
病理解剖室	118.9 m ²	〃	(主な設備)	パラフィン浸透機、包埋センター、ドラフトチャンバー		
研究室	8193.8 m ²	〃	(主な設備)	顕微鏡、冷却遠心機、CO2インキュベーター		
講義室	363.4 m ²		室数	2 室	収容定員	210 人
図書室	1135.2 m ²		室数	1 室	蔵書数	52000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	73.1	%	逆紹介率	67.4	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		22,170		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,670		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,331		人
	D: 初診の患者の数		32,156		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会名誉会長	○	地域医療に関する学識 経験者	無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 顧問		病院機能に関する学識 経験者	無	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する学識 経験者	無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の代表 者	無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学講座教授		医療に関する学識経験 者	無	1
鳶 幸治	関西医科大学 臨床病理学講座教授		臨床病理に関する学識 経験者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膀胱がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	4
切除可能肝細胞がんに対する陽子線治療と外科的切除	0
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん	13
遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法	0
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	13
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	2
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術及び十二指腸空腸バイパス術	2
子宮内膜受容能検査1	1
子宮内細菌叢検査1	12
二段階胚移植法	0
先進医療の種類合計	10
扱い患者数合計(人)	47

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	94
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症	71
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	47
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	36	60	再生不良性貧血	54
6	パーキンソン病	340	61	自己免疫性溶血性貧血	13
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンテントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	238
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トウス病	8	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	163	66	IgA 腎症	154
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	39
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	55	68	黄色靱帯骨化症	65
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	38	69	後縦靱帯骨化症	173
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	64
17	多系統萎縮症	27	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	69	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	55	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	36	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	4
29	ウルリツヒ病	0	84	サルコイドーシス	174
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	42
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己食空腔性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	56	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	34	90	網膜色素変性症	87
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	93	原発性胆汁性胆管炎	111
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	11
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	122
41	巨細胞性動脈炎	11	96	クローン病	209
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	490
43	顕微鏡的多発血管炎	42	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	13	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	33	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	2
46	悪性関節リウマチ	19	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	295	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	130	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	184	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	46	107	若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	280	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	30	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	12	110	ブラウ症候群	1

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	5	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	11	167	マルファン症候群	10
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピックースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	4
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	11

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	4	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	26	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	11	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	8	266	家族性地中海熱	6
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	19	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	4
222	一次性ネフローゼ症候群	2	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	7	271	強直性脊椎炎	23
224	紫斑病性腎炎	20	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	12	274	骨形成不全症	8
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	7	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	22
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性腭炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	74
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	21
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アツシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	178

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	2
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	2
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1 B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	144
合計患者数(人)	5,016

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料1
・看護職員夜間配置加算	・救命救急入院料4
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・看護職員処遇改善評価料56
・摂食障害入院医療管理加算	・早期栄養介入管理加算
・栄養サポートチーム加算	・看護補助体制充実加算
・医療安全対策加算1	・精神科リエゾンチーム加算
・感染対策向上加算1	・入院栄養管理体制加算
・患者サポート体制充実加算	・指導強化加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・報告書管理体制加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・算定上限日数に関する基準
・ハイリスク分娩管理加算	・早期離床リハビリテーション加算
・呼吸ケアチーム加算	・養育支援体制加算
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・入院時食事療養／生活療養（I）	・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。）
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・糖尿病合併症管理料	・癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
・がん性疼痛緩和指導管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（過活動膀胱）
・がん患者指導管理料イ	・角結膜悪性腫瘍切除術
・がん患者指導管理料ロ	・羊膜移植術
・がん患者指導管理料ハ	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・がん患者指導管理料ニ	・緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・糖尿病透析予防指導管理料	・人工中耳植込術
・小児運動器疾患指導管理料	・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・耳管用補綴材挿入術
・婦人科特定疾患治療管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
・腎代替療法指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・一般不妊治療管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・生殖補助医療管理料 1	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
・二次性骨折予防継続管理料 1	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・二次性骨折予防継続管理料 3	・乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・外来放射線照射診療料	・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・外来腫瘍化学療法診療料 1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・ニコチン依存症管理料	・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・肝炎インターフェロン治療計画料	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）
・薬剤管理指導料	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・地域連携診療計画加算	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料 1	・胸腔鏡下弁置換術
・医療機器安全管理料 2	・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）

・ 歯科治療時医療管理料	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 禁煙治療補助システム指導管理加算	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・ 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	・ 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・ 遺伝学的検査	・ 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・ 染色体検査の注2に規定する基準	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
・ BRCA1/2 遺伝子検査	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・ 先天性代謝異常症検査	・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
・ 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	・ 腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ 検体検査管理加算（I）	・ 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）

・検体検査管理加算（Ⅳ）	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
・遺伝カウンセリング加算	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・体外衝撃波胆石破碎術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下肝切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胆道閉鎖症手術
・胎児心エコー法	・生体部分肝移植術
・ヘッドアップティルト試験	・体外衝撃波膵石破碎術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・脳波検査判断料 1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・神経学的検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・補聴器適合検査	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・ロービジョン検査判断料	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・コンタクトレンズ検査料 1	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・画像診断管理加算 3	・同種死体腎移植術

・ポジトロン断層撮影	・生体腎移植術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・外傷全身CT加算	・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
・心臓MRI撮影加算	・精巣内精子採取術
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・心大血管疾患リハビリテーション料（I）	・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
・脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・運動器リハビリテーション料（I）	・無心体双胎焼灼術
・呼吸器リハビリテーション料（I）	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・がん患者リハビリテーション料	・体外式膜型人工肺管理料

・ 歯科口腔リハビリテーション料 2	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算 1
・ 認知療法・認知行動療法 1	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算 1
・ 医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の休日加算 1	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算 1
・ 医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の時間外加算 1	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の深夜加算 1	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
・ 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	・ 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術）
・ 多血小板血漿処置	・ 輸血管理料 I
・ 硬膜外自家血注入	・ 輸血適正使用加算
・ エタノールの局所注入（甲状腺）	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ エタノールの局所注入（副甲状腺）	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ 人工腎臓	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 導入期加算 1	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算	・ 歯根端切除手術の注 3
・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ レーザー機器加算
・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ 麻酔管理料（I）
・ 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・ 麻酔管理料（II）
・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・ 放射線治療専任加算

・手術用顕微鏡加算	・外来放射線治療加算
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・高エネルギー放射線治療
・センチネルリンパ節加算	・一回線量増加加算
・皮膚移植術（死体）	・強度変調放射線治療（IMRT）
・自家脂肪注入	・画像誘導放射線治療（IGRT）
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））	・定位放射線治療
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	・画像誘導密封小線源治療加算
・椎間板内酵素注入療法	・保険医療機関間の連携による病理診断
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・病理診断管理加算2
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）	・腹腔鏡下仙骨腔固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・連携充実加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	・
・LDLアフェレシス療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	110回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	14例
	剖検率(%)	2%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Wnt5a-Yap axisによる心筋細胞メカノトランスダクション制御機構の解明	塩島 一郎	内科学第二講座	7,020,000	補委 文部科学省・日本学術振興会 科研費
脳腫瘍の再発予知と予防薬の開発	浅井 昭雄	脳神経外科学講座	5,850,000	補委 文部科学省・日本学術振興会 科研費
片麻痺歩行再建の治療指針を提供するAIシステムの基盤形成	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	2,730,000	補委 文部科学省・日本学術振興会 科研費
グルタミン・セリン代謝に着目した乳癌予後マーカー アディポフィリン発現機序の解明	石田 光明	病理学講座	1,560,000	補委 日本学術振興会 科研費
哺乳類胚の着床を可能とする細胞間相互作用の解明	松浦 徹	病理学講座	2,080,000	補委 日本学術振興会 科研費
単極記録型ホルター加算平均心電図のJ波症候群における有用性の検討	高木 雅彦	内科学第二講座	2,080,000	補委 日本学術振興会 科研費
日本循環器学会データ出力標準フォーマットを用いた心臓核医学検査情報の管理	竹花 一哉	内科学第二講座	1,430,000	補委 日本学術振興会 科研費
活性化血小板をターゲットとした炎症性腸疾患バイオマーカー同定と新規治療法の開発	長沼 誠	内科学第三講座	1,690,000	補委 日本学術振興会 科研費
pSmad2/3L-Thr発現に着目した消化管癌の発癌・進展機構解析と臨床応用	福井 寿朗	内科学第三講座	1,300,000	補委 日本学術振興会 科研費
日本人のバレット食道患者の癌化リスクに係わる分子異常と要因	田原 智満	内科学第三講座	1,950,000	補委 日本学術振興会 科研費
オミックスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	加藤 正樹	精神神経科学講座	1,040,000	補委 日本学術振興会 科研費

小計
11件

無床精神科における成人発症Ⅱ型シトルリン血症の実態調査研究	許 全利	精神神経科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
精神分析的療法は自閉スペクトラム症患者のミラーニューロンシステムを補強するか	齊藤 幸子	精神神経科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸内細菌叢の乱れに着目した小児微小変化型ネフローゼ症候群の病因解明と治療法の開発	辻 章志	小児科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
抗癌剤内包型フタロシニン修飾リポソームを用いた胆嚢癌に対する新規治療法開発	海堀 昌樹	外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
転写因子を標的とした脊髄髄膜瘤の予防法の開発	磯崎 春菜	脳神経外科学講座	3,250,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん幹細胞を標的とした標準免疫療法の開発	李 一	脳神経外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん幹細胞の遊走を制御するイオンチャンネルの分子基盤	内藤 信晶	脳神経外科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
二分脊椎症と診断された患者およびその家族を対象とした原因遺伝子の探索	武田 純一	脳神経外科学講座	3,120,000	補委	日本学術振興会 科研費
副腎皮質オルガノイドを用いた自家移植法の開発	元木 佑典	腎泌尿器外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
抗VEGF薬治療時の抗菌薬点眼反復投与による結膜嚢常在細菌叢のdysbiosis	佐々木 香る	眼科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
網膜静脈症モデル動物における高血圧の影響について	高橋 寛二	眼科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
ヒト脂肪幹細胞の陰圧負荷培養を応用した創傷治癒・血管新生効果の解明と応用	覚道 奈津子	形成外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
組織の氷点下非凍結による保存	畔 熱行	形成外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

CT透視ガイド下穿刺を姿勢制御技術を搭載したデバイスで補助する研究	中谷 幸	放射線科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
花粉食物アレルギー症候群における歯科用金属のアジュバント効果の検討	朝子 幹也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性エクソソーム由来miRNAから難治性好酸球性気道炎症の病態を探る	小林 良樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
抜歯後MRONJ発症機序の解明および予防策の確立	兒島 由佳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
リンパ還流障害の中枢に画像ガイド下でリンパ管-静脈バイパスを作成する動物実験	丸山 拓士	放射線科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
PMEAコーティングの生体内長期抗菌効果の証明	小野 泰之	放射線科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
重症敗血症病態の白血球減少に関するmicroRNAと標的遺伝子、蛋白質の同定	竹下 淳	麻酔科学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
播種性血管内凝固症候群の血小板減少に関するmicroRNAと標的遺伝子の同定	影山 京子	麻酔科学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
脳死ドナーの臓器保護戦略 医療ガスを用いての検討	岩崎 光生	麻酔科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
ショック時に発生する腸管循環異常の病態解明とその制御方法に関わる研究	池側 均	救急医学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性嗅覚障害の機序解明とEDNをターゲットにした新しい治療戦略の構築	神田 晃	臨床検査医学センター	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症における赤血球表面上の補体沈着と侵襲度の評価	室谷 卓	救急医学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管循環系からみた敗血症ショックの新しい循環管理法の開発に関する研究	鍬方 安行	救急医学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

血管リモデリングマウスを用いた血管スパズムモデルの開発と新規スパズム抑制薬の検討	松岡 祐貴	形成外科学講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
高齢食道癌患者に対する術前化学療法施行中の運動・栄養介入の有用性試験	山崎 誠	外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
機能性食品(AHCC)による膵癌治療成績改善を検証する 二重盲検無作為化比較試験	里井 壯平	外科学講座	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
肝虚血再灌流障害に対するセンスオリゴヌクレオチドを用いた新規核酸医薬の開発研究	奥山 哲矢	外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌に対するレンバチニブ内包スマートメッシュを用いた新規治療デバイスの開発	松井 康輔	外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
膵癌細胞におけるadipophilinの発現とグルタミン代謝メカニズムの解明	山木 壮	外科学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
iNOSセンスオリゴヌクレオチドを中心とした敗血症治療に対する基盤構築	中竹 利知	外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
癒着制御剤を内包したスマートシートによる術後癒着予防効果の検討	小坂 久	外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺癌特異マーカーPRAMEの生物学的意義の解明と新規治療戦略への展開	谷口 洋平	呼吸器外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
肺癌 invasive frontの空間的病理解析による浸潤/免疫抑制機構の解明	齊藤 朋人	呼吸器外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
HELLP症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究	森川 守	産科学・婦人科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
内分泌・低酸素環境における子宮内膜分化機構の解明	岡田 英孝	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
子宮内膜免疫寛容の転写制御機構を解明する	村田 紘未	産科学・婦人科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

降下性縦隔炎の治療法構築と地域包括医療計画への提言:医療ビッグデータを用いた解析	日高 浩史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
スギ花粉症舌下免疫療法に対するCX3CR1を指標としたバイオマーカーの開発	濱田 聡子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺移植を用いた細胞性免疫機能変化による老人性難聴予防とヒトへの応用	杉田 侑己	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
起立性調節障害児のデコンディショニングに対するトレーニングプログラムの開発	石崎 優子	小児科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
乳幼児の反復性尿路感染症における腸内細菌層是正による新規予防法の確立	木全 貴久	小児科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
コロナ禍による小児の貧困・体格・生活スタイルの変容	高屋 淳二	小児科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
アルツハイマー病発症リスクを層別化する中年期脳微細血管障害スコアモデルの構築	薬師寺 祐介	神経内科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
浸潤性膀胱癌における新規治療ターゲットとしての一次繊毛	吉田 崇	腎泌尿器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
Augmented Realityを利用した、追体験型手術教育法の開発と評価	木下 秀文	腎泌尿器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
免疫微小環境リモデリングに着目した尿路上皮癌新規複合免疫療法の開発	齊藤 亮一	腎泌尿器外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
ミトコンドリア代謝を指標とした、新規ヒト精子品質評価技術の確立と品質維持への試み	谷口 久哲	腎泌尿器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
光環境サイクルという視点からの、新たな心身症治療法の可能性	福永 幹彦	心療内科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
医療面接における共感場面の社会的・生理的特徴からの客観的解明	阿部 哲也	心療内科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

がん患者の不眠障害に対する完全在宅型心拍変動バイオフィードバックシステムの開発	蓮尾 英明	心療内科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
超小型シーケンサーを用いた周術期感染症のオンサイト迅速モニタリング技術の開発	串田 剛俊	整形外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
次世代シーケンサーによる椎間板・椎体および脊椎インプラントに存在する細菌叢の探究	足立 崇	整形外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔-ECT時間がけいれん発作の質および臨床的有効性・忍容性に及ぼす影響について	奥川 学	精神神経科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
進行期肺癌に対する癌化学療法への医療経済的なアプローチによる解析	玉置 岳史	内科学第一講座	130,000	補委	日本学術振興会 科研費
核膜構造・機能からみるヒト遺伝性疾患の解明	塚口 裕康	内科学第二講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
食後代謝異常が造血幹細胞老化を誘導する際のヒストン脱メチル化酵素の役割	岩崎 真佳	内科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による冠動脈粥腫自動診断システムの開発とその臨床応用に関する研究	藤井 健一	内科学第二講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
内向き整流Kチャンネルを基軸としたグリオーマ浸潤メカニズムの解明	吉村 晋一	脳神経外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
プレジジョン・メディシンに向けた悪性脳腫瘍の治療パッケージの創製	埜中 正博	脳神経外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
遠隔転移の予防に向けた新規免疫調節因子の発現メカニズムの解明	岩田 亮一	脳神経外科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
蛋白付着抑制コートはバイオフィルム形成を阻止しカテーテルへの細菌付着を妨げるか？	狩谷 秀治	放射線科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔中の脳波による鎮痛モニタリング法の開発	萩平 哲	麻酔科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

脳死ラットにおける新規心不全治療薬による心筋保護効果の検討	上林 卓彦	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
妊娠高血圧と中枢神経性調節:機能的磁気共鳴イメージングを用いた脳機能的結合性解析	中畑 克俊	麻酔科学講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
病態解明と創薬を目標とした妊娠高血圧症候群患者の血小板中microRNA解析	金沢 路子	麻酔科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
COVID-19における急激な病態悪化メカニズムの解明および予防ターゲットの提示	伊藤 明日香	麻酔科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
1型自己免疫性膵炎における細胞外小胞由来miR-21-5pの病態への関与	中丸 洸	内科学第三講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する制御性T細胞を中心とした新規バイオマーカーの探索	伊藤 嵩志	内科学第三講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
フォーカシングの精神科領域臨床応用のための無作為化比較試験:うつ病とQOL	越川 陽介	精神神経科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
ECTにおけるけいれん発作の成否を包括的に定量化するレジストリ研究とその検証	青木 宣篤	精神神経科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
前立腺癌担癌マウスへのMST1 inhibitor投与による腫瘍抑制効果の検討	安田 鐘樹	腎泌尿器外科学講座	2,730,000	補委	日本学術振興会 科研費
I-131抵抗性の克服による甲状腺癌に対する新規分子標的薬併用放射線療法の開発	鈴木 健介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
静脈麻酔薬デクスメトミジンによるインスリン分泌抑制機序の解明	楠 宗矩	麻酔科学講座	3,120,000	補委	日本学術振興会 科研費
網膜静脈閉塞症における側副血行路形成予測方法の開発	大庭 慎平	眼科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
甲状腺癌に対する分子標的薬併用内/外放射線治療法の開発	酒井 遥	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

甲状腺癌に対するAt-211を用いた標的RI治療と分子標的薬の併用療法の確立	福井 研太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性副鼻腔炎の克服を目指した新規融合タンパク質の鼻腔組織への有効性	清水 皆貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
活性化2型自然リンパ球に発現するCD69の分子機能的役割の解明	阪本 大樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
ヒトiPS細胞を用いた唾液腺組織の再構築と移植による唾液腺機能回復	澤田 俊輔	歯科・口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎骨壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	切東 真子	歯科・口腔外科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
川崎病の罹患因子としての腸内細菌叢の役割の検討	赤川 翔平	小児科学講座	2,990,000	補委	日本学術振興会 科研費
淡明細胞型腎細胞癌の個別化医療を目的としたバイオマーカーの同定	大杉 治之	腎泌尿器外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
症状評価と客観的指標を用いた摂食障害に対する反復経頭蓋磁気刺激療法の有効性の検証	池田 俊一郎	精神神経科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
レナリドミドの移植片対宿主病に及ぼす影響の解明—制御性T細胞を中心として—	吉村 英晃	内科学第一講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
ヒト化マウスを用いた炎症性腸疾患モデルの開発と接着分子阻害による治療法の開発	福原 貴太郎	内科学第三講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
大腸癌細胞外小胞がもたらす生体内での腫瘍免疫変化の解析	富山 尚	内科学第三講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
非アルコール性脂肪性肝炎の線維化進行と肝発癌を予測する新規バイオマーカーの開発	山口 隆志	内科学第三講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
高悪性度腎細胞癌の治療薬シーズの探索	大江 知里	病理学講座	390,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

Rap1不活化制御による制御性T細胞の動態調節とその破綻による腸炎病態への影響	堀谷 俊介	内科学第三講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブル存在下で増強したキャビテーションによる経皮吸収促進の評価	上野 裕	放射線科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による患者個別線量分布推定に基づいた自動放射線治療計画システムの構築	小池 優平	放射線科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
悪性腫瘍に対する新たな放射線塞栓療法の開発	河野 由美子	放射線科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
IFN β -1aシグナルと低酸素応答系のクロストークによる肺血管内皮バリア機能制御	角 千里	麻酔科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
閉塞性睡眠時無呼吸に対するOA治療評価のバイオマーカーの有用性	坂本 由紀	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
介護保険診療における治療戦略AIの開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
HELLP症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究	森川 守	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
高齢食道癌患者に対する術前化学療法施行中の運動・栄養介入の有用性試験	山崎 誠	外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	長沼 誠	内科学第三講座	200,000	補委	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	長沼 誠	内科学第三講座	400,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	埜中 正博	脳神経外科学講座	700,000	補委	厚生労働省
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	濱田 吉則	外科学講座	150,000	補委	厚生労働省

小計
13件

患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究	海堀 昌樹	外科学講座	400,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	水野 泰之	心療内科学講座	1,000,000	補委	厚生労働省
エビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築	長沼 誠	内科学第三講座	12,125,750	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
感覚刺激による潜在的な生命保護作用誘導技術「感覚創薬」による敗血症治療薬の開発	室谷 卓	救急医学講座	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
下肢装具から脱却するためのリハビリテーションを支援する歩行介入エンジンの研究開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	17,803,500	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ロボット支援手術における熟練技術追体験型学習システム	木下 秀文	腎泌尿器外科学講座	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性化型VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験	薬師寺 祐介	神経内科学講座	400,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第III相試験	吉岡 弘鎮	呼吸器腫瘍内科学講座	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
病理学的Stage II/III で“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第III 相試験	井上 健太郎	外科学講座	130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
急性骨髄性白血病に対する治療用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験	佐竹 敦志	内科学第一講座	1,099,900	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
安静時脳波により超早期認知症を検知・識別する人工知能の開発と検証	嶽北 佳輝	精神神経科学講座	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験	蓮尾 英明	心療内科学講座	310,246	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	関本 貢嗣	外科学講座	520,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
SCRUM-Japan の基盤を活かしたNFE2L2 遺伝・変異を有する喫煙関連扁平上皮がんに対するsapanisertib(TAK-228)の医師主導治験	佐竹 悠良	がんセンター	2,470,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)

小計
14件

がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	木川 雄一郎	外科学講座	455,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科学講座	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科学講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
TCR多様性に基づく免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測に関する研究	倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科学講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	海堀 昌樹	外科学講座	1,040,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	海堀 昌樹	外科学講座	3,126,500	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	海堀 昌樹	外科学講座	200,200	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立	竹花 一哉	内科学第二講座	520,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
運動機能障害者の就労・教育を支援するジェスチャインタフェースの社会実装	阿部 哲也	心療内科学講座	780,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
QOL計測とハートフルネス実践による食体験共有システム	蓮尾 英明	心療内科学講座	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
放射線画像データおよび医師所見による骨関連事象事前予測のためのAIシステムの開発	中村 聡明	放射線科学講座	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
乳癌再発リスク層別化に向けた新規予後予想キットの開発	石田 光明	病理学講座	3,360,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
骨盤内・後腹膜腔内管腔臓器に対する、磁気共鳴イメージング (MRI) プローブを内蔵した診断用カテーテルの開発	吉田 崇	腎泌尿器外科学講座	3,360,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒト脂肪幹細胞の特性解析と再生医療への応用: 新たな乳房再建法の確立	覚道 奈津子	形成外科学講座	5,000,000	補委	公益財団法人ソロブチミスト日本財団

小計
14件

不登校を伴う起立性調節障害児が抱える不安に対する入院加療の有用性の検討	柳本 嘉時	小児科学講座	400,000	補委	公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団
Plaque erosionの発生機序解明と、血管内画像診断アルゴリズム構築に関する研究	橋本 健太	内科学第二講座	2,000,000	補委	公益信託循環器学研究振興基金
AIを用いた深層学習による分娩予後予測モデルの作成	森川 守	産科学・婦人科学講座	5,000,000	補委	公益財団法人上原記念生命科学財団
機能性大麦を用いた腸内細菌叢を標的とする新たな食物エネルギー治療法の開発	赤川 翔平	小児科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人ニッポンハム食の未来財団
二分脊椎症の原因遺伝子の解明	埜中 正博	脳神経外科学講座	1,000,000	補委	公益財団法人大阪コミュニティ財団
脊髄髄膜瘤の予防法の開発	磯崎 春菜	脳神経外科学講座	500,000	補委	公益財団法人日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
二分脊椎症の予防に向けた原因遺伝子の解明:患者の全ゲノム解析から疾患モデル動物の創造に至るリバーストランスレショナルリサーチ	埜中 正博	脳神経外科学講座	3,000,000	補委	公益財団法人川野小児医学奨学財団
米国・カナダ病理学会 第111回学術集会The united States and Canadian Academy of Pathology's 111th Annual Meeting	大江 知里	病理学講座	200,000	補委	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団

小計
8件

合計 151 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題 名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Miyashita N.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Atypical pneumonia due to SARS-CoV-2: clinical differentiation using the JRS pneumonia guidelines	Respiratory investigation 60(6):735-737 2022	Original Article
2	Ishiura Y, Fujimura M, Ohkura N, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Tiotropium Add-On and Treatable Traits in Asthma-COPD Overlap: A Real-World Pilot Study	Journal of asthma and allergy 15:703-712 2022/05	Original Article
3	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Early identification of novel coronavirus (COVID-19) pneumonia using clinical and radiographic findings	Journal of infection and chemotherapy 28(5):718-721 2022/05	Original Article
4	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Changes in diagnostic usefulness of the JRS scoring system in COVID-19 pneumonia by SARS-CoV-2 vaccination	Journal of infection and chemotherapy 28(10):1375-1379 2022/06	Original Article
5	Ito T, Sanford D, Tomuleasa C, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Healthcare resource utilization trends in patients with acute myeloid leukemia ineligible for intensive chemotherapy receiving first-line systemic treatment or best supportive care: A multicenter international study	European journal of haematology 109(1):58-68 2022/07	Original Article
6	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Clinical features of nursing and healthcare-associated pneumonia due to COVID-19	Journal of infection and chemotherapy 28(7):902-906 2022/07	Original Article
7	Tsubokura Y, Yoshimura H, Satake A, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Early administration of lenalidomide after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation suppresses graft-versus-host disease by inhibiting T-cell migration to the gastrointestinal tract	Immunity, inflammation and disease 10(9):e688 2022/09	Original Article
8	Yoshimura H, Satake A, Ishii Y, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Real-world efficacy of letermovir prophylaxis for cytomegalovirus infections after allogeneic hematopoietic stem cell transplantations: A single-center retrospective	Journal of Infection and Chemotherapy 28(9):1317-1323 2022/09	Original Article
9	Miyashita, N Nakamori, Y Ogata, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Clinical efficacy of casirivimab-imdevimab antibody combination treatment in patients with COVID-19 Delta variant	Journal of infection and chemotherapy 28(9):1344-1346 2022/09	Original Article
10	Miyashita N, Higa F, Aoki Y, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Usefulness of the Legionella Score for differentiating from COVID-19 pneumonia to legionella pneumonia	Journal of infection and chemotherapy 28(10):1353-1357 2022/10	Original Article
11	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Functional outcomes in elderly patients with hospitalized COVID-19 pneumonia: A 1 year follow-up study	Influenza and other respiratory viruses 16(6):1197-1198 2022/11	Original Article
12	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Prognosis of activities of daily living function in hospitalized patients with nursing and healthcare-associated pneumonia due to COVID-19	Influenza and other respiratory viruses 17(1):e13045 2023/01	Original Article
13	Shimazu Y, Kanda J, Kosugi S, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Efficacy of elotuzumab for multiple myeloma in reference to lymphocyte counts and kappa/lambda ratio or B2 microglobulin	Scientific reports 13(1):5159 2023/03	Original Article
14	Ilseung Choi, Okada M, Ito T (equally contoributor)	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Real-world data from yttrium-90 ibritumomab tixetan treatment of relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin's lymphoma: J3Zi Study	Ann Hematol 102(5):1149-1158 2023	Original Article
15	Sugita H, Motohiro M, Morishita S, et al.	循環器内分分泌 内科	Factors Associated with Coronary In-Stent Restenosis after Drug-Eluting Stent Implantation in Patients on Chronic Hemodialysis	Blood purification 51(4):383-389 2022	Original Article
16	Fujii K, Kubo T, Otake H, et al.	循環器内分分泌 内科	Expert consensus statement for quantitative measurement and morphological assessment of optical coherence tomography: update 2022	Cardiovascular Intervention and Therapeutics 37(2):248-254 2022/04	Review
17	Takehana K.	循環器内分分泌 内科	Takotsubo Cardiomyopathy: What should myocardial perfusion imaging reveal.	Journal of nuclear cardiology 29(3):1047-1050 2022/06	Original Article
18	Hashimoto K, Fujii K, Shibutani H, et al.	循環器内分分泌 内科	Prediction of medial damage by rotational atherectomy using intravascular ultrasound	Coronary artery disease 33(4):295-301 2022/06	Original Article
19	Bando K, Yamashita H, Tsumori M, et al.	循環器内分分泌 内科	Compact automated culture machine for human induced pluripotent stem cell maintenance and differentiation	Frontiers in bioengineering and biotechnology 10:1074990 2022/11	Original Article
20	Suwa Y, Miyasaka Y, Taniguchi N, et al.	循環器内分分泌 内科	Atrial fibrillation and stroke: importance of left atrium as assessed by echocardiography.	Journal of Echocardiography 20(2):69-76 2022/06	Review

小計
20件

21	Ito T, Shimatani M, Masuda M, et al.	消化器肝臓内科	Endoscopic retrieval of a migrated surgical clip in a choledochojejunal anastomosis using the rendezvous technique	Endoscopy 54(5):E182-E183 2022/05	Case Report
22	Yamaguchi T, Yoshida K, Murata M, et al.	消化器肝臓内科	Smad3 Phospho-Isoform Signaling in Nonalcoholic Steatohepatitis	International journal of molecular sciences 23(11):6270 2022/06	Review
23	Sumimoto K, Uchida K, Ikeura T, et al.	消化器肝臓内科	Nationwide epidemiological survey of immunoglobulin G4-related disease with malignancy in Japan	Journal of gastroenterology and hepatology 37(6):1022-1033 2022/06	Original Article
24	Ito T, Shimatani M, Masuda M, et al.	消化器肝臓内科	Efficacy and safety of endoscopic stent placement for afferent loop obstruction using a short double-balloon endoscopy	DEN open. 3(1):e154 2022/07	Original Article
25	Masuda M, Fukata N, Sano Y, et al.	消化器肝臓内科	Analysis of the initial dose and reduction rate of corticosteroid for ulcerative colitis in clinical practice	JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology 6(9):612-620 2022/08	Original Article
26	Takeo M, Nishio A, Masuda M, et al.	消化器肝臓内科	Repeated Stimulation of Toll-Like Receptor 2 and Dectin-1 Induces Chronic Pancreatitis in Mice Through the Participation of Acquired Immunity	Digestive diseases and sciences 67(8):3783-3796 2022/08	Original Article
27	Nakamura N, Suzuki R, Takahashi Y, et al.	消化器肝臓内科	Percutaneous transhepatic obliteration for rupture of varices in the small intestine: a case report	Clinical Journal of Gastroenterology 15(5):890-894 2022/10	Case Report
28	Ohtsu T, Takahashi Y, Tokuhara M, et al.	消化器肝臓内科	Gastric hamartomatous inverted polyp: Report of three cases with a review of the endoscopic and clinicopathological features	DEN Open 3(1):e198 2023/01	Original Article
29	Ikoma T, Matsumoto T, Kurioka Y, et al.	呼吸器腫瘍内科	Improvement of Body Weight and Nutritional Status in Gastric Cancer Patients Enhances the Benefit of Nivolumab Therapy	Journal of clinical medicine 11(20):6100 2022/10	Original Article
30	Hasuo H, Hashimoto K, Iwamoto H, et al.	心療内科	Effect of ischemic compression performed by family caregivers on myofascial pain syndrome and the care burden of the families of patients: a multicenter open-label randomized comparative study	Annals of Palliative Medicine 11(4):1179-1190 2022/04	Original Article
31	Nishiyama J, Abe T, Imaizumi S, et al.	心療内科	Characteristics of outpatients with functional somatic syndromes at a university hospital's general medicine clinic	Journal of General and Family Medicine 23(4):268-274 2022/04	Original Article
32	Hasuo H, Oomori H, Yoshida K, et al.	心療内科	Effect of visual feedback during ultrasound-guided hydrodissection for myofascial pain syndrome: An exploratory, prospective, observational clinical trial on the expectations for treatment	Frontiers in Psychiatry 13:794424 2022/08	Original Article
33	Abe T, Nishiyama J, Kushida S, et al.	心療内科	Tailored opening questions to the context of using medical questionnaires: Qualitative analysis in first-visit consultations	Journal of General and Family Medicine 24(2):79-86 2022/12	Original Article
34	Hasuo H, Kusaka N, Sano M, et al.	心療内科	Effects of eating together online on autonomic nervous system functions: a randomized, open-label, controlled preliminary study among healthy volunteers	BioPsychoSocial medicine 17(1):10 2023/03	Original Article
35	Hashimoto Y, Kuniishi H, Sakai K, et al.	脳神経内科	Brain Dp140 alters glutamatergic transmission and social behaviour in the mdx52 mouse model of Duchenne muscular dystrophy	Progress in neurobiology 216:102288 2022/05	Original Article
36	Nakamura M, Nakayama K, Murakami A, et al.	脳神経内科	Early presentation of lower urinary tract and bowel dysfunction in sporadic amyotrophic lateral sclerosis: A case report	eNeurologicalSci 28:100413 2022/06	Case Report
37	Murakami A, Koga S, Sekiya H, et al.	脳神経内科	Old age amyotrophic lateral sclerosis and limbic TDP-43 pathology	Brain pathology 32(6):e13100 2022/11	Original Article
38	Toyama Y, Fujii Y, Hori SI, et al.	小児科	L-carnitine rescue for neonatal intractable mitochondrial cardiomyopathy	Pediatrics international 64(1):e15143 2022/04	Case Report
39	Ishizaki Y, Matsuo M, Saito K, et al.	小児科	Factors Surrounding the Healthcare Transition From Pediatric to Adult Care in 5p- Syndrome: A Survey Among Healthcare Professionals	Frontiers in pediatrics 10:924343 2022/07	Original Article
40	Hirabayashi M, Yamanouchi S, Akagawa S, et al.	小児科	Accuracy of diagnosing acute kidney injury by assessing urine output within the first week of life in extremely preterm infants	Clinical and experimental nephrology 26(7):709-716 2022/07	Original Article

小計
20件

41	Takaya J, Tanabe Y, Kaneko K.	小児科	Sonic hedgehog N-terminal level correlates with adiponectin level and insulin resistance in adolescents	Journal of pediatric endocrinology & metabolism : JPEM 36(2):126-131 2023/01	Original Article
42	Nakai Y, Akagawa S, Fujishiro S, et al.	小児科	Dysbiosis of the gut microbiota in children with severe motor and intellectual disabilities receiving enteral nutrition: A pilot study	JPEN. Journal of parenteral and enteral nutrition 47(1):67-76 2023/01	Original Article
43	Ishizaki Y, Ochiai R, Maru M.	小児科	Editorial: Advances of health care transition for patients with childhood-onset chronic diseases: International perspectives, volume II	Frontiers in pediatrics 11:1147397 2023/02	Others
44	Tanabe Y, Nomura N, Minami M, et al.	小児科	HIST1H1E syndrome with deficiency in multiple pituitary hormones	Clinical Pediatric Endocrinology 32(3):195-198 2023	Original Article
45	Kaibori M, Yoshii K, Matsui K, et al.	外科	Modified Albumin-Bilirubin Grade and Alpha-Fetoprotein Score (mALF Score) for Predicting the Prognosis of Hepatocellular Carcinoma after Hepatectomy	Cancers 14(21):5292 2022/10	Original Article
46	Kaibori M, Hiraoka A, Iida H, et al.	外科	Comparison of the New Neo-Glasgow Prognostic Score Based on the Albumin-Bilirubin Grade with Currently Used Nutritional Indices for Prognostic Prediction following Surgical Resection of Hepatocellular Carcinoma: A Multicenter Retrospective Study in Japan	Cancers 14(9):2091 2022/04	Original Article
47	Hatta M, Kaibori M, Matsushima H, et al.	外科	Efficacy of a third-generation oncolytic herpes simplex virus in refractory soft tissue sarcoma xenograft models	Molecular therapy oncolytics 25:225-235 2022/04	Original Article
48	Yamamoto T, Satoi S, Yamaki S, et al.	外科	Intraperitoneal Paclitaxel Treatment for Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma with Peritoneal Dissemination Provides a Survival Benefit	Cancers 14(5):1354-1354 2022/05	Original Article
49	Matsushima H, Ishizaki M, Kosaka H, et al.	外科	A case of undifferentiated carcinoma of the gallbladder with severe inflammation and difficult preoperative chemotherapy	Clinical Journal of Gastroenterology 15(3):623-629 2022/06	Case Report
50	Sakaguchi T, Satoi S, Hashimoto D, et al.	外科	High tumor budding predicts a poor prognosis in resected duodenal adenocarcinoma	Surgery today 52(6):931-940 2022/06	Original Article
51	Satoi S, Takahara N, Fujii T, et al.	外科	Synopsis of a clinical practice guideline for pancreatic ductal adenocarcinoma with peritoneal dissemination in Japan; Japan Peritoneal Malignancy Study Group	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 29(6):600-608 2022/06	Original Article
52	Kosaka H, Ishida M, Ueno M, et al.	外科	Tumor budding may be a promising prognostic indicator in intrahepatic cholangiocarcinoma: A multicenter retrospective study	Annals of Gastroenterological Surgery 7(1):138-146 2022/07	Original Article
53	Matsui Y, Hashimoto D, Satoi S, et al.	外科	Reevaluation of regional lymph nodes in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma in the pancreatic body and tail	Annals of Gastroenterological Surgery 7(1):147-156 2022/08	Original Article
54	Kaibori M, Matsui K, Hayashi M.	外科	Theranostics Using Indocyanine Green Lactosomes	Cancers 14(15):3840 2022/08	Review
55	Ikeda Y, Hamada M, Matsumi Y, et al.	外科	Use of ileal bypass in the surgical management of two rare cases of ileal-neobladder fistula in patients who underwent radical cystectomy	Urologia 89(3):488-492 2022/08	Case Report
56	Kikawa Y, Kotake T, Tsuyuki S, et al.	外科	Effectiveness of eribulin as first-line or second-line chemotherapy for HER2-negative hormone-resistant advanced or metastatic breast cancer: findings from the multi-institutional, prospective, observational KBCRN A001: E-SPEC study	Breast cancer 29(5):796-807 2022/09	Original Article
57	Kaibori M, Yoshii K, Umeda Y, et al.	外科	Surgical Outcomes of Laparoscopic versus Open Hepatectomy for Left Hepatocellular Carcinoma: Propensity Score Analyses Using Retrospective Japanese and Korean Individual Patient Data	Liver Cancer 12(1):32-43 2022/10	Original Article
58	Kosaka H, Satoi S, Kono Y, et al.	外科	Estimation of the degree of surgical difficulty anticipated for pancreatoduodenectomy: Preoperative and intraoperative factors	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 29(11):1166-1174 2022/11	Original Article
59	Kikawa Y, Hagiwara Y, Fujisawa T, et al.	外科	Health-related quality of life and estimation of the minimally important difference in the Functional Assessment of Cancer Therapy-Endocrine Symptom score in postmenopausal ER+/HER2- metastatic breast cancer with low sensitivity to endocrine therapy	PLoS ONE 17(11):e0278344 2022/11	Original Article
60	Hashimoto D, Satoi S, Yamamoto T, et al.	外科	Long-term outcomes of patients with multifocal intraductal papillary mucinous neoplasm following pancreatectomy	Pancreatology 22(7):1046-1053 2022/11	Original Article

小計
20件

61	Kaibori M, Yoshii K, Kosaka H, et al.	外科	Preoperative Serum Markers and Risk Classification in Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Multicenter Retrospective Study	Cancers 14(21):5459 2022/11	Original Article
62	Yamaki S, Sato S, Yamamoto T, et al.	外科	Risk factors and treatment strategy for clinical hepatico-jejunosotomy stenosis defined with intrahepatic bile duct dilatation after pancreaticoduodenectomy: A retrospective study	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 29(11):1204-1213 2022/11	Original Article
63	Kobayashi T, Ishida M, Miki H, et al.	外科	Significance of desmoplastic reactions on tumor deposits in patients with colorectal cancer	Oncology letters 25(1):1 2022/11	Original Article
64	Tanaka R, Nakamura H, Yoshimoto S, et al.	外科	Postoperative anastomotic stricture following excision of choledochal cyst: a systematic review and meta-analysis	Pediatric surgery international 39(1):30 2022/12	Review
65	Uehara H, Hamada M, Hatta M, et al.	外科	Two cases of 18F-FDG-PET/CT positive Schloffer tumor following curative surgery of colon cancer	Clinical case reports 10(12):e6741 2022/12	Case Report
66	Hashimoto D, Sakaguchi T, Sato S, et al.	外科	Survival impact of occult liver metastasis and peritoneal dissemination compared with radiologically defined distant organ metastasis in pancreatic ductal adenocarcinoma	Pancreatology 23(1):73-81 2023/01	Original Article
67	Kobayashi T, Matsui Y, Miki H, et al.	外科	Case report: administration of immune checkpoint inhibitor for SMARCB1 (INI1)-negative rhabdoid carcinoma with microsatellite instability (MSI)-high in the right colon	Surgical case reports 9(1):17 2023/02	Case Report
68	Yamamoto H, Kaibori M, Matsushima H, et al.	外科	Efficacy and Safety of Liver Resection in Super Elderly Patients with Hepatocellular Carcinoma	Asian Pacific journal of cancer prevention 24(3):1089-1094 2023/03	Original Article
69	Utsumi T, Saito T, Honda O, et al.	呼吸器外科	Right Epipericardial Fat Necrosis After Thymectomy	The Annals of thoracic surgery 113(4):E259-E261 2022/04	Case Report
70	Hino H, Utsumi T, Maru N, et al.	呼吸器外科	Results of emergency salvage lung resection after chemo- and/or radiotherapy among patients with lung cancer	Interactive cardiovascular and thoracic surgery 35(1):ivac043 2022/06	Original Article
71	Saito T, Murakawa T, Shintani Y, et al.	呼吸器外科	Preoperative renal dysfunction and long-term survival after surgery for non-small cell lung cancer	The Journal of thoracic and cardiovascular surgery 164(1):227-239 2022/07	Original Article
72	Utsumi T, Taniguchi Y, Noda Y, et al.	呼吸器外科	SMARCA4-deficient undifferentiated tumor that responded to chemotherapy in combination with immune checkpoint inhibitors: A case report	Thoracic cancer 13(15):2264-2266 2022/07	Case Report
73	Saito T, Hamakawa A, Takahashi H, et al.	呼吸器外科	Symptom severity trajectories and distresses in patients undergoing video-assisted thoracoscopic lung resection from surgery to the first post-discharge clinic visit	PLoS ONE 18(2):e0281998 2023/02	Original Article
74	Nakano T, Kaneda H, Fukumoto K, et al.	呼吸器外科	A retrospective analysis of treatment selection and risk factors of treatment failure and recurrence in patients with spontaneous pneumothorax	Journal of Thoracic Disease 15(3):1217-1227 2023/03	Original Article
75	Hino H, Utsumi T, Maru N, et al.	呼吸器外科	Surgical risk and survival impact of octogenarian lung cancer patients compared to those of younger patients undergoing surgery	Current Challenge in Thoracic Surgery Online publication 29 March 2023 2023/03	Original Article
76	Hosono M, Yasumoto H, Kuwauchi S, et al.	心臓血管外科	Comprehensive Pain Control Strategy in Minimally Invasive Mitral Valve Repair	Annals of thoracic and cardiovascular surgery 28(3):180-185 2022/06	Original Article
77	Nonaka M, Asai A.	脳神経外科	Abusive Head Trauma in Infants and Children in Japan	Journal of Korean Neurosurgical Society 65(3):380-384 2022/05	Original Article
78	Takeda J, Nonaka M, Li Y, et al.	脳神経外科	5-Aminolevulinic acid fluorescence-guided endoscopic surgery for intraventricular tumors	Surgical neurology international 13:302 2022/07	Original Article
79	Ueno K, Nonaka M, Hashiba T, et al.	脳神経外科	Primary central nervous system lymphoma of the tectal plate in adult	Surgical neurology international 13:319 2022/07	Case Report
80	Iwamura H, Nonaka M, Li Y, et al.	脳神経外科	A case of acute hydrocephalus due to a giant prolactinoma rescued by transventricular neuroendoscopic tumorectomy	Surgical neurology international 14:30 2023/01	Case Report

小計
20件

81	Iwamura H, Nonaka M, Komori Y, et al.	脳神経外科	Newborn with severe supratentorial subdural hematoma due to laceration of the tentorium cerebelli	Child's nervous system : ChNS 39(1):261-264 2023/01	Case Report
82	Tenjin H, Saito O, Matsumoto K, et al.	脳神経外科	Morphological Factors affecting Coil-Only Embolization of Small Unruptured Aneurysms	Asian journal of neurosurgery 18(1):125-131 2023/03	Original Article
83	Ohno H, Murata M, Kamo T, et al.	整形外科	A New Total Knee Arthroplasty Technique for Valgus Knees that preserves the deep layer of the medial collateral ligament	Acta orthopaedica et traumatologica turcica 56(3):205-209 2022/05	Original Article
84	Tani Y, Saito T, Taniguchi S, et al.	整形外科	Threshold-based Monitoring of Compound Muscle Action Potentials for Percutaneous Pedicle Screw Placement in the Lumbosacral Spine: Can We Rely on Stimulation of the Uninsulated Screw to Provide a Valid Safety Warning?	Spine 47(14):1003-1010 2022/07	Original Article
85	Oe K, Iida H, Toyoda T, et al.	整形外科	Endofemoral Shooting Technique for Removing Well-fixed Cementless Stems	Arthroplasty today 17:36-42 2022/08	Original Article
86	Tani Y, Tanaka T, Kawashima K, et al.	整形外科	A triple minimally invasive surgery combination for subacute osteoporotic lower lumbar vertebral collapse with neurological compromise: a potential alternative to the vertebral corpectomy/expandable cage strategy	Neurosurgical focus 54(1):E10 2023/01	Original Article
87	Toyoda T, Oe K, Iida H, et al.	整形外科	Treatment strategies for recurrent dislocation following total hip arthroplasty: relationship between cause of dislocation and type of revision surgery	BMC musculoskeletal disorders 24(1):238 2023/03	Original Article
88	Kotani Y, Ikeura A, Saito T.	整形外科	Comparative Clinical Analysis of Oblique Lateral Interbody Fusion at L5/S1 versus Minimally Invasive Transforaminal Interbody Fusion (MIS-TLIF) for Degenerative Lumbosacral Disorders	Spine Surgery and Related Research 7(1):66-73 2023	Original Article
89	Ueda T, Kuro A, Kunieda S, et al.	形成外科	Giant basal cell carcinoma in the inguinal region invading the femoral vessels	Eplasty 22:ic5 2022/04	Case Report
90	Hihara M, Yamauchi T, Kakudo N, et al.	形成外科	Auricular Cartilage Composite Graft for Glans Reconstruction After Squamous Cell Carcinoma of the Penis	Eplasty 22:e24 2022/06	Case Report
91	Kuro A, Morimoto N, Hara T, et al.	形成外科	Protection of rat artery grafts from tissue damage by voltage-applied supercooling	Medical molecular morphology 55(2):91-99 2022/06	Original Article
92	Okamoto M, Ueda T, Fukui M, et al.	形成外科	A solitary giant neurofibroma of the left thigh: a case report	Journal of surgical case reports 2022(8):rjac359 2022/08	Case Report
93	Matsuoka Y, Fujita M, Kakudo N.	形成外科	Reconstruction of an Extensive Full-Layer Defect of the Upper Eyelid	Eplasty 22:ic15 2022/08	Case Report
94	Hihara M, Kakudo N, Mitsui T, et al.	形成外科	Functional reconstruction for severe heat press injury of the proper digits using immediate preserved subdermal vascular network (PSVN) skin graft: A case report	Journal of burn care & research 43(5):1207-1210 2022/09	Original Article
95	Hihara M, Kakudo N, Mitsui T, et al.	形成外科	The anatomic classification of the anophthalmic eye socket (Types 0-V): A high-level taxonomy classification system	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS 75(9):3491-3498 2022/09	Original Article
96	Hihara M, Takegawa M, Kakudo N, et al.	形成外科	A stylized two-stage debridement strategy using an electric dermatome and a Versajet™ hydrosurgery system for deep axillary burns	Journal of surgical case reports 2022(10):rjac481 2022/10	Original Article
97	Hihara M, Kihara M, Fukui M, et al.	形成外科	Reduction and fixation of comminuted fractures of the midface by using a Hoffman-type external fixator: A case report	JPRAS open 34:252-256 2022/10	Case Report
98	Hihara M, Fukui M, Mitsui T, et al.	形成外科	Osteolytic metatarsal osteomyelitis regenerated by combined treatment of artificial carbon dioxide foot bathing and povidone-iodine sugar ointment: a case report	Journal of medical case reports 16(1):434 2022/11	Original Article
99	Tamamine S, Himejima T, Mitsui T, et al.	形成外科	A case of occipital spindle cell lipoma: a case report	Journal of surgical case reports 2022(11):rjac544 2022/11	Case Report
100	Matsuoka Y, Fukui M, Kakudo N.	形成外科	Treatment With Novel Foam Dressing of NPWTi-D for Postoperative Necrosis Complicated by Critical Limb Ischemia	Eplasty 22:e50 2022/11	Case Report

小計
20件

101	Nagama T, Yamamoto I, Kuniyoshi K, et al.	形成外科	Long-Term Follow-up With Multispecialty Management of a Giant Lymphangioma of an Infant Tongue Contributed to Reduced Complications of the Disease: A Case Report of a 21-Year Follow-up	Eplasty 22:e56 2022/11	Case Report
102	Fukui M, Matsuoka Y, Taketani S, et al.	形成外科	Accelerated Angiogenesis of Human Umbilical Vein Endothelial Cells Under Negative Pressure Was Associated With the Regulation of Gene Expression Involved in the Proliferation and Migration	Annals of plastic surgery 89(6):e51-e59 2022/12	Original Article
103	Hihara M, Hikiami R, Kakudo N.	形成外科	Functional and cosmetic reconstruction of ocular laceration complicated by extensive eyelid degloving injury: A case report	Trauma case reports 43:100759 2023/01	Case Report
104	Masuoka H, Takai Y, Kusumoto K.	形成外科	Unilateral Palatal Hypoplasia: A Case Report With a Long-Term Follow-Up	The Cleft Palate Craniofacial Journal 60(1):105-109 2023/01	Case Report
105	Fujita M, Hihara M, Satou A, et al.	形成外科	Beneficial Impact of "Supercharged" Pectoralis Major Musculocutaneous Flap With Indocyanine Green Angiography on Reconstruction in a Patient at High Risk	Eplasty 23:e10 2023/02	Case Report
106	Fukui M, Hihara M, Takeji K, et al.	形成外科	Potent Micrografting Using the Meek Technique for Knee Joint Wound Reconstruction	Eplasty 23:e14 2023/02	Case Report
107	Hihara M, Kuro A, Mitsui T, et al.	形成外科	Twenty-minute harvesting of flow-through type vastus lateralis muscle flap significantly reduces the need for a temporary intravascular shunt in the treatment of severe upper extremity trauma in civilian patients	Medicine 102(11):e33311 2023/03	Original Article
108	Trang Nguyen-Mai Huynh, Yamazaki F, Kishimoto I, et al.	皮膚科	The Correlation between the Vascular Calcification Score of the Coronary Artery and the Abdominal Aorta in Patients with Psoriasis	Diagnostics (Basel, Switzerland) 13(2):274 2023/01	Original Article
109	Tajima A, Yamazaki F, Trang Nguyen Mai Huynh, et al.	皮膚科	A case of palisaded neutrophilic and granulomatous dermatitis associated with systemic lupus erythematosus presenting with pustules	The Journal of dermatology 50(2):262-265 2023/02	Case Report
110	Taniguchi H, Shimada S, Kinoshita H.	腎泌尿器外科	Testosterone Therapy for Late-Onset Hypogonadism Improves Erectile Function: A Systematic Review and Meta-Analysis	Urologia internationalis 106(6):539-552 2022	Original Article
111	Taguchi M, Kinoshita H, Anada N, et al.	腎泌尿器外科	Effectiveness and Safety of Ureteroscopic Lithotripsy in Young, Old-Old, Oldest-Old Patients	Journal of endourology 36(4):439-443 2022/04	Original Article
112	Yoshida T, Ohe C, Ito K, et al.	腎泌尿器外科	Clinical and molecular correlates of response to immune checkpoint blockade in urothelial carcinoma with liver metastasis	Cancer immunology, immunotherapy : CII 71(11):2815-2828 2022/04	Original Article
113	Taguchi M, Yasuda K, Kinoshita H.	腎泌尿器外科	Prospective randomized controlled trial comparing a ureteral stent crossing versus not crossing the bladder midline	World journal of urology 40(6):1537-1543 2022/06	Original Article
114	Fukui S, Yoshida T, Saito R, et al.	腎泌尿器外科	Retrograde intrarenal lithotripsy in completely bedridden children with severe physical disabilities	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 82:102304-102304 2022/06	Case Report
115	Ohsugi H, Takizawa N, Kinoshita H.	腎泌尿器外科	Preoperative Factors Associated with Intraoperative Maximum Arterial Pressures in Patients with Pheochromocytoma and Paraganglioma	International journal of endocrinology and metabolism 20(3):e123114 2022/07	Original Article
116	Ikeda J, Ohe C, Yoshida T, et al.	腎泌尿器外科	CD155 immunohistochemical expression in upper tract urothelial carcinoma predicts poor prognosis	Oncology letters 24(5):414 2022/09	Original Article
117	Taguchi M, Yasuda K, Tsuchiya A, et al.	腎泌尿器外科	Usefulness of ureteroscopic lithotripsy in Izuo position for patients with difficulty opening legs	International journal of urology 29(10):1240-1242 2022/10	Original Article
118	Ohe C, Yoshida T, Amin MB, et al.	腎泌尿器外科	Deep learning-based predictions of clear and eosinophilic phenotypes in clear cell renal cell carcinoma	Human pathology 131:68-78 2023/01	Original Article
119	Taguchi M, Kinoshita H.	腎泌尿器外科	Comparison of Empower and M-arm for one-surgeon basketing in ureteroscopic lithotripsy: a simulator study by non-doctors	Urology 172:44-48 2023/02	Original Article
120	Ikeda J, Ohe C, Tanaka N, et al.	腎泌尿器外科	Hypoxia inducible factor-1 activator munc-18-interacting protein 3 promotes tumour progression in urothelial carcinoma.	Clinical and Translational Discovery 3(1):e158 2023/02	Original Article

小計
20件

121	Ishino M, Omi M, Araki-Sasaki K, et al.	眼科	Successful identification of Granulicatella adiacens in postoperative acute infectious endophthalmitis using a bacterial 16S ribosomal RNA gene-sequencing platform with MinION™: A case report	American journal of ophthalmology case reports 26:101524 2022/04	Case Report
122	Omi M, Matsuo Y, Araki-Sasaki K, et al.	眼科	16S rRNA nanopore sequencing for the diagnosis of ocular infection: a feasibility study	BMJ Open Ophthalmology 7(1):e000910 2022/05	Original Article
123	Oba S, Araki-Sasaki K, Chihara T, et al.	眼科	Aberrant Corneal Homeostasis in Neurosurgery-Induced Neurotrophic Keratopathy	Journal of clinical medicine 11(13):3804 2022/06	Original Article
124	Ishimoto A, Araki-Sasaki K, Shima C, et al.	眼科	Corneal ulcers with non-infectious appearance caused by nasolacrimal duct obstruction or canaliculitis	American journal of ophthalmology case reports 27:101651 2022/07	Original Article
125	Araki-Sasaki K, Kanagawa T, Matsuoka Y.	眼科	HCE-T cells express cornea-specific differentiation marker, PAX6 protein	Graefes archive for clinical and experimental ophthalmology 260(12):4015-4017 2022/12	Original Article
126	Kobayashi Y, Chu HH, Kanda A, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	CCL4 functions as a biomarker of type 2 airway inflammation	Biomedicines 10(8):1779 2022/07	Original Article
127	Suzuki K, Iwai H, Utsunomiya K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Efficacy of combination therapy with lenvatinib and radioactive iodine in thyroid cancer preclinical model	International journal of molecular sciences 23(17):9872 2022/08	Original Article
128	Chu HH, Kobayashi Y, Bui DV, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	CCL4 regulates eosinophil activation in eosinophilic airway inflammation	International journal of molecular sciences 23(24):16149 2022/12	Original Article
129	Tanaka Y, Kariya S, Nakatani M, et al.	放射線科	Percutaneous Transsplenic Embolization of Gastric Varices in Left-sided Portal Hypertension	Interventional radiology (Higashimatsuyama-shi (Japan)) 7(2):58-62 2022/05	Case Report
130	Nakatani M, Kariya S, Ono Y, et al.	放射線科	Radiation Exposure and Protection in Computed Tomography Fluoroscopy	Interventional radiology (Higashimatsuyama-shi (Japan)) 7(2):49-53 2022/06	Review
131	Yoshida K, Nose T, Otani Y, et al.	放射線科	A Japanese prospective multi-institutional feasibility study on accelerated partial breast irradiation using multicatheter interstitial brachytherapy: clinical results with a median follow-up of 60 months	Breast cancer 29(4):636-644 2022/07	Original Article
132	Komemushi A, Takashima S, Nagai A, et al.	放射線科	Practical Radiation Protection for Interventional Radiologist	Interventional radiology (Higashimatsuyama-shi (Japan)) 7(2):54-57 2022/07	Review
133	Koike Y, Ohira S, Teraoka Y, et al.	放射線科	Pseudo low-energy monochromatic imaging of head and neck cancers: Deep learning image reconstruction with dual-energy CT	International journal of computer assisted radiology and surgery 17(7):1271-1279 2022/07	Original Article
134	Hirota K, Kariya S, Ueno Y, Nakatani M, et al.	放射線科	Venous Rupture Following Transcatheter Arterial Embolization for Inferior Mesenteric Type II Arteriovenous Malformation	Interventional radiology (Higashimatsuyama-shi (Japan)) 7(2):81-84 2022/07	Case Report
135	Matsushita M, Honda O, Kohzai M, et al.	放射線科	Bronchogenic cyst with atypical imaging findings and repeated ruptures in a short period of time: A case report	Case reports in radiology 17(10):3933-3937 2022/08	Case Report
136	Anetai Y, Sumida I, Kumazaki Y, et al.	放射線科	Assessment of using a gamma index analysis for patient-specific quality assurance in Japan	Journal of applied clinical medical physics 23(10):e13745 2022/10	Original Article
137	Kono Y, Utsunomiya K, Ohe C, et al.	放射線科	Carcinoma of Unknown Origin Identified as Renal Cell Carcinoma by 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography Scan: A Report of Two Cases	Cureus 14(10):e29827 2022/10	Case Report
138	Kariya S, Yamamoto S, Nakatani M, et al.	放射線科	The role of lymphatic interventional radiology for postoperative lymphorrhea.	Int J Gastrointest Interv 11(4):186-191 2022/11	Original Article
139	Anetai Y, Kinami S, Koike Y, et al.	放射線科	Novel angular evaluation method for radiation field using Lie derivative	Journal of the Korean Physical Society 81(11):1157-1168 2022/11	Original Article
140	Yoshida K, Kotsuma T, Takaoka Y, et al.	放射線科	HDR-brachytherapy for accelerated partial breast irradiation: Long-term experience from a Japanese institution	Journal for contemporary brachytherapy 15(1):1-8 2022/02	Original Article
141	Anetai Y, Takegawa H, Koike Y, et al.	放射線科	Effective optimization strategy for large optimization volume object, remaining volume at risk (RVR): α -value selection and usage from generalized equivalent uniform dose (gEUD) curve deviation perspective	Physics in medicine and biology 68(5):055008 2023/03	Original Article
142	Koike Y, Takegawa H, Anetai Y, et al.	放射線科	Patient-specific three-dimensional dose distribution prediction via deep learning for prostate cancer therapy: Improvement with the structure loss	Physica medica : PM : an international journal devoted to the applications of physics to medicine and biology : official journal of the Italian Association of Biomedical Physics (AIFB) 107:102544 2022/02	Original Article
143	Yokoe T, Kita M, Butsuhara Y, et al.	産科婦人科	Salvage Chemotherapy and Maintenance Therapy with Poly Adenosine Diphosphate-Ribose Polymerase Inhibitors for Bevacizumab-Resistant Relapse of Epithelial Ovarian	Obstetrics and gynecology 43(5):24-31 2022	Original Article
144	Yokoe T, Kita M, Suzuki K, et al.	産科婦人科	Laparoscopic hemostasis and drainage for postpartum retroperitoneal hematoma complicated with an infection: A case report and surgical	Annals of Medicine and Surgery 77:103686 2022/04	Case Report
145	Yokoe T, Kita M, Sumi G, et al.	産科婦人科	Successful management of metastatic ovarian carcinosarcoma with olaparib plus bevacizumab: a case report	European journal of gynaecological oncology 43(3):147-151 2022/06	Case Report
146	Morikawa M, Ieko M, Nakagawa-Akabane K, et al.	産科婦人科	Prevention of venous thromboembolism in pregnant women with congenital antithrombin deficiency: a retrospective study of a candidate protocol	International journal of hematology 116(1):60-70 2022/07	Original Article

小計
20件

147	Yokoe T, Kita M, Butsuhara Y, et al.	産科婦人科	R0 resection of vaginal stump recurrence of gynecologic malignancy by bi-directional endoscopic approach: A case series of four patients	Asian journal of endoscopic surgery 16(1):82-85 2022/07	Case Report
148	Mamoru Morikawa, Hidemichi Watari.	産科婦人科	Gestational diabetes mellitus offsets the birth rate of small-for-gestational-age infants induced by hypertensive disorders of pregnancy: a single-center retrospective	Hypertension Research in Pregnancy 10:1-9 2022/09	Original Article
149	Murata H, Tanaka S, Okada H.	産科婦人科	The Regulators of Human Endometrial Stromal Cell Decidualization	Biomolecules 12(9):1275 2022/09	Review
150	Komiya S, Banno M, Itagaki Y.	産科婦人科	Regarding "Stress management and In Vitro Fertilization (IVF): A pilot randomized controlled trial".	Psychiatrike = Psychiatriki 33(3):247-248 2022/09	Others
151	Morikawa M, Sugiyama T, Hiramatsu Y, et al.	産科婦人科	Screening methods for gestational diabetes mellitus in Japan in 2018: a retrospective cohort study using a national surveillance questionnaire	Endocrine journal 69(11):1313-1322 2022/11	Original Article
152	Morikawa Y, Watanabe Y, Yamauchi M, et al.	産科婦人科	Educational significance and challenges of conducting the objective structured clinical examination twice for midwifery students before and after clinical training: A longitudinal single university study during 2014-2019 in	PLoS ONE 17(12):e0278638 2022/12	Original Article
153	Kita M, Yasuhara Y, Sumi G, et al.	産科婦人科	Fertility-sparing radical resection of juvenile clear cell adenocarcinoma of the cervix by pneumovaginal endoscopic surgery	Gynecologic oncology Reports 45(2023):101135 2023/01	Original Article
154	Tsubokura H, Ishida M, Nishigaki A, et al.	産科婦人科	Significance of placental CD200 expression in patients with preeclampsia: Comparison between early- and late-onset patients	Molecular Medicine Reports 27(1):18 2023/01	Original Article
155	Hashimoto Y, Tsuzuki-Nakao T, Kida N, et al.	産科婦人科	Inflammatory Cytokine-Induced HIF-1 Activation Promotes Epithelial-Mesenchymal Transition in Endometrial Epithelial Cells	Biomedicines 11(1):210 2023/01	Original Article
156	Umegaki T, Kunisawa S, Nishimoto K, Nakajima Y, Kamibayashi T.	麻酔科	Paraplegia After Open Surgical Repair Versus Thoracic Endovascular Aortic Repair for Thoracic Aortic Disease: A Retrospective Analysis of Japanese Administrative Data	Journal of cardiothoracic and vascular anesthesia 36(4):1021-1028 2022/04	Original Article
157	Ito A, Okada T, Minato N, et al.	麻酔科	Possible internal viral shedding and interferon production after clinical recovery from COVID-19: Case report	Frontiers of medicine 9:959196 2022/08	Case Report
158	Noda Y, Ohe C, Ishida M, et al.	病理診断科	Useful diagnostic histogenetic features of ectopic odontogenic ghost cell tumours.	BMC oral health 22(1):134 2022/04	Case Report
159	Noda Y, Ishida M, Ueno Y, et al.	病理診断科	Novel pathological predictive factors for extranodal extension in oral squamous cell carcinoma: a retrospective cohort study based on tumor budding, desmoplastic reaction, tumor-infiltrating lymphocytes, and depth of invasion	BMC cancer 22(1):402 2022/04	Original Article
160	Okabe A, Ishida M, Noda Y, et al.	病理診断科	Small-cell neuroendocrine carcinoma of the cervix accompanied by adenocarcinoma and high-grade squamous intraepithelial lesion	Diagnostic cytopathology 50(10):E285-E288 2022/10	Original Article
161	Noda Y, Ishida M, Yamaka R, et al.	病理診断科	MMP14 expression levels accurately predict the presence of extranodal extensions in oral squamous cell carcinoma: a retrospective cohort study	BMC cancer 23(1):142 2023/02	Original Article
162	Noda Y, Yamaka R, Atsumi N, et al.	病理診断科	Areas of Crush Nuclear Streaming Should Be Included as Tumor Content in the Era of Molecular Diagnostics	Cancers 15(6):1910 2023/03	Original Article
163	Onoe A, Kajino K, Daya MR, et al.	救急医学科	Improved neurologically favorable survival after OHCA is associated with increased pre-hospital advanced airway management at the prefecture level in Japan	Scientific reports 12(1):20498 2022/11	Original Article
164	Matsumoto T, Yamamura S, Ikoma T, et al.	がんセンター	Real-World Data of Trastuzumab Deruxtecan for Advanced Gastric Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study	Journal of clinical medicine 11(8):2247 2022/04	Original Article
165	Matsumoto T, Yamamura S, Ikoma T, et al.	がんセンター	Real-World Data of Trifluridine/Tipiracil for Patients With Advanced Gastric Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study	Clinical Medicine Insights. Oncology 16:11795549221137135 2022/11	Original Article
166	Boku S, Satake H, Ohta T, et al.	がんセンター	TRESBIEN (OGSG 2101): encorafenib, binimetinib and cetuximab for early recurrent stage II/III BRAF V600E-mutated colorectal cancer	Future oncology 18(38):4153-4160 2022/12	Review
167	Matsumoto T, Ikoma T, Yamamura S, et al.	がんセンター	Regorafenib is suitable for advanced colorectal cancer patients who have previously received trifluridine/tipiracil plus bevacizumab	Scientific reports 13(1):2433 2023/02	Original Article
168	Ikoma T, Shimokawa M, Matsumoto T, et al.	がんセンター	Inflammatory prognostic factors in advanced or recurrent esophageal squamous cell carcinoma treated with nivolumab	Cancer immunology, immunotherapy : CII 72(2):427-435 2023/02	Original Article
169	Kojima Y, Otsuru M, Hasegawa T, et al.	歯科・口腔外科・口腔ケアセンター	Risk factors for osteoradionecrosis of the jaw in patients with oral or oropharyngeal cancer: Verification of the effect of tooth extraction before radiotherapy using propensity score matching analysis	Journal of dental sciences 17(2):1024-1029 2022/04	Original Article
170	Sakamoto Y, Tanabe A, Moriyama M, et al.	歯科・口腔外科・口腔ケアセンター	Number of Bacteria in Saliva in the Perioperative Period and Factors Associated with Increased Numbers	International journal of environmental research and public health 19(13):7552 2022/06	Original Article
171	Kojima Y, Soutome S, Otsuru M, et al.	歯科・口腔外科・口腔ケアセンター	Factors Exacerbating Clinical Symptoms and CT Findings in Patients with Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw Receiving Conservative Therapy: A Multicenter Retrospective Study of 53 Cases	International journal of environmental research and public health 19(13):7854 2022/06	Original Article
172	Sakamoto Y, Otsuru M, Hasegawa T, et al.	歯科・口腔外科・口腔ケアセンター	Treatment and Prognosis of Oral Cancer Patients with Confirmed Contralateral Neck Metastasis: A Multicenter Retrospective Analysis	International journal of environmental research and public health 19(15):9229 2022/07	Original Article

小計
20件

合計
172件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
 - 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、もって教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	・年5回、集合形式で講習会及びワークショップを開催 ・e-learning
-----------------------	--

	(eAPRIN及びICR、講習会等のWeb講習)
<p>・研修の主な内容</p> <p>集合形式の講習会及びワークショップ</p> <p>1. 第15回 倫理講習会</p> <p style="padding-left: 40px;">「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の概要と留意点</p> <p>2. 第16回 倫理講習会</p> <p style="padding-left: 40px;">「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正に伴う留意点</p> <p>3. 第25回 臨床研究ワークショップ 看護研究6</p> <p style="padding-left: 40px;">学会で研究成果を発表しよう～学会発表の基本的な流れと演題抄録のまとめ方～</p> <p>4. 第26回 臨床研究ワークショップ モニタリングのポイント</p> <p>5. 第27回 臨床研究ワークショップ 看護研究7</p> <p style="padding-left: 40px;">学会で研究成果を発表しよう～魅せる・伝わるプレゼンテーションのコツ～</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価し問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先進的な医療に関する研修を行っています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシミュレーションセンターや電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	145 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
伊藤 量基	血液呼吸器膠原病 感染症内科	診療部長・主任教授	31年	アレルギー疾患内科または アレルギー科、リウマチ科を含む
塩島 一郎	循環器腎内分泌代 謝内科	診療部長・主任教授	37年	
長沼 誠	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	31年	
蓮尾 英明	心療内科	診療部長・主任教授	20年	
薬師寺 祐介	脳神経内科	診療部長・主任教授	27年	
倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科	診療部長・主任教授	33年	
関本 貢嗣	外科	診療部長・主任教授	42年	消化器外科、乳腺外科、 小児外科を含む
小山 忠明	心臓血管外科	診療部長・主任教授	32年	
村川 知弘	呼吸器外科	診療部長・主任教授	31年	
加藤 正樹	精神神経科	診療部長・主任教授	26年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	40年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	43年	
齋藤 貴徳	整形外科	診療部長・主任教授	40年	
長谷 公隆	リハビリテーション科	診療部長・主任教授	38年	
覚道 奈津子	形成外科	診療部長・主任教授	21年	
谷崎 英昭	皮膚科	診療部長・主任教授	21年	
木下 秀文	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	35年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	39年	
岩井 大	耳鼻咽喉科	診療部長・主任教授	40年	内分泌外科を含む
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	38年	
岡田 英孝	産婦人科	診療部長・主任教授	30年	
上林 卓彦	麻酔科	診療部長・主任教授	36年	
鋤方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	39年	
神田 晃	臨床検査医学科	診療部長・主任教授	28年	

蔦 幸治	病理診断科	診療部長・主任教授	26年	
兒島 由佳	歯科・口腔外科	診療部長・主任教授	27年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①医薬品と管理法 ②倫理と個人情報 ③リスクマネジメントと危機管理 ・研修の期間・実施回数 ①令和4年10月21日 ②令和4年12月12日～12月23日 ③令和5年2月13日 ・研修の参加人数 ①33名 ②58名 ③20名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 松田 公志
管理担当者氏名	事務部長 藤原宏司、看護部長 島村里香、薬剤部長 谷川昇

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	各病棟
		検査所見記録	臨床検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴情報課 病歴情報課
			当院は2006年開院時から電子カルテを導入しており、保管期間は診療が完結した日から20年としている。紹介状や同意書等の紙媒体で生成されるものについては、電子カルテにスキャンし、紙媒体も原本として保管している。また、画像フィルムについてはすべてのモダリティのフィルムレス化を実施しており、現物保管は行っていない。診療録を病院外へ持ち出すことは、個人情報保護の観点から認めていない。患者データの抽出は、所定の抽出依頼書に所属部門長の承認を受けた上で医療情報部へ申請を行う。医療情報部長は利用目的を審査の上、患者データの抽出を行う。依頼者は患者データの利用が完了次第、速やかに依頼者の責任のもと患者データを削除する。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	各診療科
		閲覧実績	病歴情報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携部
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	・ 保管部署で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	用度課
		監査委員会の設置状況	法人 総合企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人 総合企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 松田 公志
閲覧担当者氏名	管理課長 船原 宏通 医事課長 越智 雅章 病歴情報課長 石原 久美子
閲覧の求めに応じる場所	・1階 情報ライブラリー室
閲覧の手続の概要 ・閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理に関する基本的考え方 2 医療安全管理対策委員会その他の組織に関する基本的事項 3 職員に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針 4 医療事故報告等の医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 8 その他医療安全の推進のための必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 28 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理対策委員会（12回） 2 セーフティマネージャー委員会（書面審議10回、オンライン1回） 3 医療の経過検討委員会（5回） 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「医療安全体制と安全文化」 2 「立入検査と5事例報告」 3 「医薬品安全講習」 4 「医療情報システム安全管理」 5 「薬剤と転倒転落」 6 「大阪地裁による医療訴訟ガイダンス」 7 e-ラーニング（外部）以下4種類から2種類を選択受講 <ol style="list-style-type: none"> (1) インスリンの適量投与 (2) アラームの不適切対応 (3) 本人・家族との情報やりとり (4) 心理的安全性と医療安全文化 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 死亡・死産報告の義務化と合併症報告の対象の一部基準化 2 医療安全管理マニュアル年1回見直し及び改定 3 医療安全管理部作成のオリジナル動画配信による職員講習の実施 受講容の理解度を測る確認テストを兼ねたアンケートの実施 4 技術研修（模擬体と超音波装置を使用したシミュレーション訓練） 5 新入職者、中途入職者への医療安全に関する入職オリエンテーション実施 6 医療事故防止策は、セーフティマネージャーが中心となり、時系列行動表作成と必要に応じてRCAを行い、背景要因を明らかにするために方策を立案 7 事例から検討された医療安全確保のための方策について、ポスター・通知書等で職員に周知し、アンケート等での周知状況を確認 8 放射線科の検査報告書の未読リストを該当診療科に送付し、報告書見落と 	

し予防対策の実施

- 9 毎月、全部署及びセーフティマネージャーに「医療安全情報」を配付
- 10 毎月、全部署及びセーフティマネージャーに、医療安全管理部作成の「医療安全マンスリーレポート」及び「チームSTEPPSポスター」を配付
- 11 テーマに沿った医療安全院内ラウンドを年5回実施
- 12 日本私立医科大学協会主催の他大学病院との相互ラウンドの実施
- 13 医療事故発生時、発生部署及び関連部署への聞き取り

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊦・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連感染対策に関する基本的な考え 2 感染対策委員会の設置 3 感染対策マニュアル 4 感染症の報告 5 医療関連感染発生時の対応 6 職員研修の基本方針 7 患者への指針の公開 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策 ○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査 ○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査 ○院内感染発生時の対応、対策 ○感染対策研修会の企画および開催 ○院内ラウンド サーベイランスの実施 ○血液培養陽性症例ラウンドの実施 ○針刺事故の発生状況と事故防止対策の検討 ○感染対策地域連携合同カンファレンスでの報告 ○滅菌材料部滅菌状況報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ○感染経路別予防策と咳エチケット 抗菌薬適正使用 ○感染対策の重要なポイント ○外部コンテンツ(e-ラーニング) <ul style="list-style-type: none"> ・ 抗菌薬を大事に使おう！AMRに立ち向かうために ・ こんなときどうする？確定前から始める感染対策シミュレーション「結核編」 ・ こんなときどうする？確定前から始める感染対策シミュレーション「クロストリディオイデス・ディフィシル編」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊦・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ 病棟ラウンド(ICTラウンド)時の監査内容のフィードバック ・ 感染対策研修会の開催、e-ラーニング ・ 感染対策地域連携合同カンファレンスの開催(4回/年) 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	② 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>今年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、オンデマンドによる講習を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医薬品安全講演会（院内コンテンツ）：随時、全職員対象 「医薬品安全講習 ～病院機能評価受審に向けて～」 ○e-ラーニング（外部コンテンツ）：随時、全職員対象 「KCLの誤投与」のコンテンツを課題選定して、優先的に受講するようにした。 ○その他（対象者限定） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「麻薬web講習動画」（8月、全看護職・全薬剤師受講） ・ 新入職対象 医薬品安全研修（4月、新入職看護師・薬剤師対象） ・ 研修医対象 医薬品安全研修（4月、新入職研修医対象） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用・購入 ○調剤室・病棟における医薬品の管理 ○病棟・各部門への医薬品の供給 ○外来・入院患者への医薬品使用 ○医薬品情報の収集・管理・提供 ○手術・麻酔部門における医薬品安全使用 ○救急部門・集中治療部門における医薬品安全使用 ○輸血・血液管理部門・血液浄化部門における医薬品安全使用 ○画像診断部門・内視鏡部門・外来化学療法部門・歯科領域における医薬品安全使用 ○他施設との連携に関する事項 ○事故発生時の対応 ○教育・研修 ○医薬品関連の情報システムの利用 ○その他
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○乳がん等の自壊創の出血や浸出液に対して使用する「モーズ軟膏」 ○癌性腹膜炎による腹膜の炎症を一時的に緩和して腹水の再貯留を抑制する「ケナコルト注」など ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○院内医療安全情報「徐放性製剤の粉碎投与に注意」の発出（2022.6） ○メチルロザニリン塩化物（ピオクタニン）取扱への対応（2022.8） ○麻薬の管理・保管に関する運用変更： <ul style="list-style-type: none"> 紛失防止を目的とした赤色チャック付きビニール袋の採用（2022.8～） ○救急カートの運用変更：紙テープで封印することで点検業務を省力化（2022.11～） ○高濃度カリウム注射薬の安全使用に関する院内ルールの整備（2023.1）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年91回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○特定医療機器(人工心肺、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置)に関する取扱い説明、インシデント事案を含めた研修</p> <p>○新規購入に伴う取り扱い研修実施</p> <p>○新人研修医、看護師へのシリンジ、輸液ポンプ、人工呼吸器、生体情報モニタ等の実機使用説明実施</p> <p>○特定医療機器の定期研修に関してはe-ラーニングにて実施</p> <p>→放射線関係については放射線部で対応実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>○放射線関連装置は放射線治療部において、その他の特定医療機器については医用工学部にて保守点検計画書を作成し、それに基づき定期点検を実施、点検記録簿を作成している。</p> <p>特定医療機器以外では生体情報モニタ、電気メス、シリンジ、輸液ポンプ、ペースメーカー、麻酔器、逐次型空気圧式マッサージ器、低圧持続吸引器も保守点検計画にて実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：有</p> <p>R4年度審議件数：2件</p> <p>1) SS-OCT PLEX Elite 9000装着用前眼部ユニット 前眼部血管撮影を行う為に使用。これにより角膜新生血管や結膜充血の客観的評価および濾過胞の無血管評価を行う。</p> <p>2) 一酸化窒素ガス分析装置 (Medisoft FeNO) 既存の呼気中一酸化窒素測定と異なり、呼出流速を変えて気道領域のみならず、肺泡領域や鼻腔領域由来の一酸化窒素を測定する。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○日本医療評価機構、PMDA、メーカーから発出される自主回収・安全情報を院内ALL USERメールにて情報発信している。その中で当院に設置(使用)しているものは医用工学部及び、医療機器安全管理責任者、関連部署へ報告実施している。</p> <p>また、医用工学部H.P上で医療機器安全情報の発信もしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>関西医科大学附属病院組織分掌規則 第57条第2項に「医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する」と明記されている。</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会の委員長に指定されており、当該委員会において、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者からの業務報告内容について、委員長として統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○1ヶ月毎に薬品別使用量や金額使用量を集計した「院内医薬品使用状況一覧」を作成しており、当院での使用状況を把握している。</p> <p>○医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）を利用するなど、国内外の医薬品情報をwebより収集している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、必要に応じて①メール配信および②セーフティマネージャー委員会にて報告している。また、その議事録を職員全員に回覧後、議事録閲覧確認票（押印票）の回収により周知状況を把握している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、薬剤部 薬品情報科でファイリングして整理しており、過去のメール配信記録は職員がいつでも閲覧できるようホームページ上に整理している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○調剤時に処方箋を確認し、処方薬剤が適応外又は併用禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握している。</p> <p>○上記に該当する場合は薬学的知見に基づき、調剤者および監査者は、提出された文献等を参考に使用の必要性やリスク検討を加え、処方の妥当性等を確認している。</p> <p>○適応外または併用禁忌等について疑義照会した場合の照会内容は、処方箋のコピーを記録として保管し、医薬品安全管理責任者に毎月報告している。</p> <p>○必要に応じて、医師に適応外または併用禁忌等について指導を行うとともに、院内全体に未承認等の医薬品の使用に関して必要な情報共有を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（☑・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 医師1名） （所属：薬剤部，職種 薬剤師3名）</p> <p>（所属：医療安全管理部，職種 薬剤師1名）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無

<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認及び指導の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 インフォームドコンセントマニュアルに説明と同意に関する方針、手順を定めている。 2 説明・同意書の新規作成、改定文書は全て医療安全管理部門で確認している。 3 遵守状況の確認は、医療説明等管理責任者参加の診療録監査小委員会にて実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○診療録等の適切な管理を行うために診療録等の記載内容の確認に関すること ○診療録等の診療録内容等の定期的な確認に関すること ○必要の応じて行う指導に関すること ○診療録の記載が十分でない事例などの各部署への通知および研修に関すること 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（8）名、専任（ ）名、兼任（9）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ） 	

- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - ・部門会議の開催（2022年10月27日、2023年1月25日）
 - ・許可された技術の定期的なモニタリング
 - ・業務手順書の見直し
 - ・院内ホームページの開設（職員周知用）
 - ・各診療部科長への周知
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（107件）、及び許可件数（107件、条件付承認を含む）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - 未承認：0件
 - 適応外：107件
 - 禁忌：0件
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 553 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 74 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1 死亡・死産報告と合併症報告の義務について、医師入職オリエンテーション時に説明している
 - 2 セーフティーマネージャー委員会にて、件数報告及び周知を実施している。

- 3 院内で発生した死亡情報及び合併症報告を確認し、インシデント報告がされていない診療科等に報告するよう督促を行うなど活動をしている。
- 4 毎月の医療安全管理対策委員会において、死亡・死産報告、合併症報告の件数及び事例を報告し、必要に応じ改善策を審議している。審議結果は病院長へ報告している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：静岡がんセンター、愛知医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：静岡がんセンター）・無）
- ・技術的助言の実施状況

1 インシデントやアクシデントの報告等の状況

【助言】(1) インシデント・アクシデント報告を増やすと共に、インシデントからアクシデントに至る前の対策が必要

(2) M&Mカンファレンスの開催回数が少ない。開催基準等の見直しが必要

【対応】(1) セーフティマネージャー委員会において、インシデント検討会を発足した。
頻度の高いインシデント事例について、知識の補充や改善策の周知を行っている。

(2) M&Mカンファレンスの開催基準を作成し、医療安全管理マニュアルに追加した。

2 医療安全管理委員会の業務の状況

助言なし

3 医薬品等の安全使用体制の状況

助言なし

4 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

【助言】(1) 承認後の術式、術者等の変更手順の整備

(2) 評価部門による事前・事後の定期的（退院後、転院後も含む）なモニタリングの実施

(3) 未申請の高難度新規医療技術をサーベイランスする仕組みの整備

(4) 申請制度や管理システムが不十分のため整備が必要

【対応】(1) 実施体制の変更が生じた場合は、診療科長へ再申請を依頼することを手順書に明記した。

(2) モニタリングの期間と内容について手順書に明記し、運用している。

(3) ① 診療科に対し、高難度新規医療技術の申請手順やE難度リストを周知徹底した。

② 医事課医療サービス係手術室担当を中心とした、E難度リストと手術実施予定リストとの事前突合を実施している。

③ DPC データや手術実施データ等と、E 難度リストとの事後突合を実施している。

(4) 手順書を策定し、部門会議の定期開催を実施している。

5 監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況
助言なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 1 「関西医科大学附属病院患者相談窓口運用規程」を定め、患者相談窓口の運用及び体制を確保している。
- 2 病院 HP に患者相談窓口のご案内として、場所、対応時間、相談内容を掲載している。
- 3 病院 2 階に「患者総合相談窓口」を設定し、病院 1 階に個室の相談室を設け、相談者が不利益を受けないよう配慮している。
- 4 病院 2 階の「患者総合相談窓口」には、病院 HP 掲載内容のほか、責任者名、相談対応職種を記載した看板を設置している。
- 5 相談内容によっては、インシデント報告対応事案となり、一部内容は医療安全管理対策委員会に報告し、委員会にて対応を検討する体制が確保されている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- 1 「医療安全体制と安全文化」
- 2 「立入検査と 5 事例報告」
- 3 「医薬品安全講習」
- 4 「医療情報システム安全管理」
- 5 「薬剤と転倒転落」
- 6 「大阪地裁による医療訴訟ガイダンス」
- 7 e-ラーニング（外部）以下 4 種類から 2 種類を選択受講
 - (1) インスリンの適量投与
 - (2) アラームの不適切対応
 - (3) 本人・家族との情報やりとり
 - (4) 心理的安全性と医療安全文化

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

○2022年度特定機能病院管理者研修（2023年2月3日）

【医療安全管理責任者】

○2022年度特定機能病院管理者研修（2022年7月11日）

【医薬品安全管理責任者】

○2022年度特定機能病院管理者研修（2023年2月3日）

【医療機器安全管理責任者】

○2022年度特定機能病院管理者研修（2023年1月30日）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受信状況

○日本医療機能評価機構認定病院 令和5年4月6日認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

(日本医療機能評価機構ホームページにおける公開内容)

■ 改善要望事項

・ 機能種別 一般病院3

講ずべき処置の内容については未発表です。(10月1日現在)

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身ともに健全にして人格高潔である医師 2. 医療安全確保のために必要な資質、能力を有している者 3. 病院の管理運営のために必要な資質、能力を有している者 4. 関西医科大学附属病院における病院理念、基本方針、医療倫理指針を理解し、遂行することができる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
神崎秀陽	学校法人関西医科大学 常務理事	○	常任理事会から選出された理事	有・無
木梨達雄	関西医科大学 学長		学長	有・無
齋藤貴徳	関西医科大学附属病院 整形外科 診療部長		附属病院部長会から選出された 診療部長	有・無
藤本良知	一般社団法人枚方市医 師会 会長		理事長が委嘱する学外有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/>
川添堯彬	学校法人大阪歯科大学 理事長		理事長が委嘱する学外有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院の運営方針に関する事 (2) 病院の経営管理に関する事 (3) 中期計画及び事業計画に関する事 (4) 医療機能に関する事 (5) 組織に関する事 (6) 人事に関する事 (7) 施設整備に関する事 (8) 予算及び決算に関する事 (9) 高難度新規医療技術の実施に関する事 (10) 未承認の医薬品等の使用に関する事 (11) 職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制の整備に関する事 (12) その他、病院の運営全般に関する事 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回(毎月第4火曜日午後4時から)開催の附属病院部科長会に報告し了承を得たうえで、職員に周知しています。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>) ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>) 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松田 公志	○	医師	病院長
谷川 昇		医師	副病院長
齋藤 貴徳		医師	副病院長
長沼 誠		医師	副病院長
藤原 宏司		事務	事務部長
島村 里香		看護師	看護部長
村中 達也		薬剤師	薬剤部副部長
仲野 俊成		医師	医療情報部副部長
川江 寛信		事務	事務部次長
越智 雅章		事務	医事課長
森本 圭祐		事務	診療情報分析室次長
大西 良和		事務	用度課長
船原 宏通		事務	管理課長
塚本 雄大		事務	管理課長
岡田 一充		事務	地域医療連携部課長
杉本 修平		事務	経理課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
 - ・ 公表の方法
 - ・ 規程の主な内容
 - 病院管理者として必要な人事及び予算執行権限について規定している。
 - ・規程の名称:附属病院組織分掌規則
 - ・条文:第3条 病院長は、病院管理者として当該病院の管理運営を掌理し、これに必要な人事及び予算執行権限を有する。
 - ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長:医療安全に関すること
 - 副病院長:救急体制、手術運営に関すること
 - 副病院長:患者サービスに関すること
 - 事務部長:経営分析に関すること
 - 看護部長:看護に関すること
 - 薬剤部副部長:薬剤に関すること
 - 医療情報部副部長:医療情報に関すること
 - ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - <看護部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の看護部長会議
 - <薬剤部副部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の薬剤部長会議
 - <事務部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の事務部長会議
 - <医事課長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の医療事務研究会
 - <管理課長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の病院庶務研究会
- なお、院内においては月1回経営会議を開催し、各科の診療成績や予算に対する収支状況について情報共有を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況		有・無			
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 附属病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について管理者から報告</p> <p>(2) (1)の報告内容に関して是正措置を講ずる必要があるかどうかの意見収集</p> <p>(3) (1)、(2)の結果公表</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 名誉会長	○	地域医療に関する 学識経験者	有・無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 顧問		病院機能に関する 学識経験者	有・無	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する 学識経験者	有・無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の 代表者	有・無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学講座教授		医療に関する 学識経験者	有・無	1
鳶 幸治	関西医科大学臨床病 理学講座教授		臨床病理に 関する学識経験者	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

通常は年4回のテーマを決めた内部監査を行っています。また、内部通報窓口となっているため、管理者の業務に関する通報があれば、対応できる体制になっています。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (・ 無)
- ・ 通報件数 (年〇件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (・ 無)
- ・ 周知の方法
 - 職員更衣室の前に学内意見箱を設置し、案内を常時掲示しています。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
○国際標準化機構 (ISO15189) 平成25年8月15日認定 ※臨床検査部内のみ	
○日本医療機能評価機構認定病院 平成30年4月6日認定	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
【発信方法】 当院ホームページ	
【内容の概要】 医療圏における基幹病院の一つとして最先端医療、高度医療をおこなっており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。	
また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	